

懐かしい人々

幸区支部 佃 馨（妻）

戦没者 佃 徹夫

戦没地 ペリリユー島

先の大戦が終って六十五年になります。

六十六年前の十一月二十四日は、主人達がパラオ諸島ペリリユー島で玉碎した日です。

この島では、主人をはじめ、私の想い出の人達があまりにも多く散華されています。

主人の所属していた、歩兵第二連隊が在った嫩江（北満の街）では沢山の将校や兵隊さん達とお付き合いがありました。特に、同郷の方々は私達の官舎を訪問されては、田舎の話に花を咲かせる楽しいひとときでした。今でも懐かしく思い出される方ばかりです。

昭和十九年三月、連隊が南方方面へと慌しく出動する時には、防諜上のこととは言え、知らないうちにお別れしてしまった皆様です。

一杯の思い出を残してくれました。特に宮川君は、我が家に遊びに来れば、子供をひと時も放さず遊んでくれ、肩車やお馬ハイハイになつて部屋中を廻ってくれたものです。我が家の子供を通じて、未だ見ぬ抱いたこともない自分の子供に、想いを馳せていることを慮りその姿に胸の詰

まることも度々でした。

こうした一人一人の想い出がはっきりと昨日のことの様に蘇り懐かしきで一杯です。

私は、皆さんとお別れしてから、皆さんの三倍近く長生きして九十三歳になりました。

私も、近いうちには皆さんとお会いすることになることでしょう。その時には、皆さんとお会いして、楽しく懐かしかったあの頃の話をお土産にしたいと心掛けております。

主人共々、今暫くお待ち下さいね。

ただ一つ困ったことがあります。首相の靖国神社参拝と近隣諸国に対する謝罪の問題、或いは、関係者の高齢化と減少に伴い慰霊活動が弱体化の傾向にあり、次世代を託すべき若者の気持が英霊崇拝・戦没者慰霊から遠のきつつある事など、皆様にどう話したら良いでしょうか。と悩んでおります。

付記

攻撃側であつた連合軍ニミッツ提督がこの島に残した言葉を紹介します。

「諸国から訪れる旅人達よ、この島を守るために、日本軍がいかに勇敢に愛国心を持って戦い玉碎したかを伝えられよ」 米太平洋艦隊指令長官 C・Wニミッツ

（ニミッツ提督は、戦後、横須賀にあつた戦艦「三笠」保存のために私財を献げられたことでも知られています。）